

## 第1回 川崎駅東口周辺地区総合自転車対策検討会議 議事要旨

平成20年8月4日（月）13:30~15:00

川崎市役所第3庁舎18階 大会議室

### <出席者（敬称略）>

学識者 : 太田、○兵藤、◎屋井 ◎座長 ○副座長  
 市民代表 : 荒金、大谷（武）、大場、篠原、恒川、西井  
 商工業者代表 : 埜瀬、福井  
 交通事業者代表 : 柿沼、末弘  
 駅周辺商業者代表 : 猪熊、馬場  
 交通管理者 : 小林、森元  
 行政 : 浅川、川端、大谷（悦夫）、菊池（代理主席）、齋藤、篠崎、菅原、平岡、三浦 の各委員

### <議事要旨>

#### I 委員紹介

#### II 検討会議要綱の説明（＝会議設置の趣旨説明）

#### III 討議

##### 1 現状・課題について

- ・ 川崎駅東口において自転車を利用する人の73%が駅を利用するとのことだが、JRと京急それぞれの利用割合を教えてください。
- ・ 川崎駅東口では駐輪場を整備しても、利用者が増加し駐車場が不足することだが、ラゾーナの駐輪場整備により西口の放置自転車がどうなったのかを次回までに提示してほしい。
- ・ 盲人は、介護人の付き添いが必要であったり、白杖で安全確保しながら通行するため、歩道の点字ブロックの上を空けただけでは改善にならない、市役所・新川通りなどでは十分な歩行者空間が必要。
- ・ 放置自転車対策の法的根拠として、次回までに「川崎市駐輪場附置義務条例」の資料を提示してほしい。

##### 2 駐輪場整備に関する要望について

- ・ 通勤通学利用者だけでも駐輪場から自転車があふれる現状からみても、駐輪場の必要台数が足りないのは明らかである。整備予定の駅前広場の上空に階層（デッキ）式の駐輪場を整備するなど、大規模な駐車場を新たに創出してほしい。
- ・ 商店街で従業員専用の駐輪場をチネチッタの駐輪場に用意しただけでも放置台数が減少した。従業員の駐輪場利用の徹底だけでも放置自転車対策の効果がある。

##### 3 基本方針または議論の方向性について

- ・ 自転車利用を推進すると言いつつ、駅前など地価の高い場所への駐輪場整備に限界があるので、交通公共機関への転換を図ることだが、駐輪場整備については、しっかりと対応してほしい。
- ・ 総合自転車対策の対象地域が分かりにくい。

- ・ 今回の資料には施策の目標が提示されていない。目標を整理してから具体の対策を提示するという手順を踏んだ方がよい。
  - ・ 駐車を駐輪場に、空いている車道を自転車専用道路にするなど、自動車社会から自転車へシフトするような施策を進めていくべきではないか。
  - ・ 若い人を中心にバス利用から自転車へと移ってしまい、バス事業が厳しくなっている。駅周辺の駐輪場が飽和状態となっている今、路線バスのサービス水準維持のためにも、バス利用を促進するような取組も必要である。
  - ・ 今回は歩道や駐輪場の議論が中心だったが、歩道だけでなく、車道も含めた交通環境を考えていかないと、根本的な解決にはならない。
  - ・ 駐輪場を作る議論をするなら、どこに、何台おくのか具体的な提案をするべきである。
  - ・ 路上駐輪場については、歩行者にとって非常に危険なため、残すか否かについて、しっかりと見極めるべきである。
  - ・ 駐輪場を駅直近に整備するにしても、そこまでのアクセスとして歩行者の安全性が確保された通行空間が必要である。
  - ・ ガソリン代が高騰して、車からバイクに乗り換える人もいるため、バイクの駐車場も合わせて考えていく必要がある。
- 4 社会実験について
- ・ 来年度予定している社会実験について、どのような社会実験を行うのか、実施内容を示してほしい。

以 上